

漫画表現による諧謔性

浅野 秀男

はじめに

美術は色と形による自己表現である。表現である以上何らかのメッセージがある。身の回りの何か、例えばリンゴや花を絵に描くとすれば、意識するしないに関わらずそこには作者の何かが表現されている。そうしたことは、児童、学生、一般であれ変わらない。表現はメッセージの内容によって表現方法は違ってくる。絵画や彫刻等、表現内容に適した方法を選択することになる。

さて今回はそうした表現方法として「漫画」を教材として選択した。「漫画」を選択した目的、理由は、若い世代にとって身近な表現方法だということ。サブカルチャーとしてメディアにも取り上げられ、彼らにとっても「漫画」は、メッセージ（考え方、センス）を表現しやすいだろうと思われる事。特に、諧謔性（ユーモア）は、無意識のうちに笑い以外のものを見る者に伝えている。教材としては、小学校課程から中学校課程への自然な展開ができる課題として「漫画」を考えている。漫画からアニメーション、動画等の展開も可能であり、鑑賞教育として絵巻物への展開も予想できる。

そもそも漫画を教材とするという発想は、1冊の小学生の漫画から始まった。まずはその小学校5年生男子の製作した漫画を紹介し、表現内容を分析する。次にその漫画の方法を条件として、教育学部小学校課程の学生35名に漫画を製作してもらった。その後、彼らの漫画作品における諧謔性から、考え方やセンスを読み取ってみたいと考えている。

小学5年生の制作した「漫画」とその分析

まずは発想の契機となった小学5年生の漫画を見てみよう。



[注]・遠近感を意識



[注]・人物の正面、側面の意識。

おじいちゃんがももをきると、なかから、こどもがでてきました。

子どもが、ももといっしょにきれてしまったのでポンドでくっつけました。このポンドもぬすんできたのです。

④ おじいちゃんがももをきると、なかから、こどもがでてきました。

⑤ 子どもが、ももといっしょにきれてしまったのでポンドでくっつけました。このポンドもぬすんできたのです。

ななしのごんべいがたびの中、ありがほくもおともさせてくださいといいました。

おにがしまにやっつきました。

⑧ ななしのごんべいが たびのと、ありが「ほくもおともさせてください」といいました。

⑨ おにがしまにやっつきました。

子どもの名まえを「ななしのごんべい」とつけました。

やがて、おじいちゃんもななしのごんべいに、「おにがしまにいったい」といいました。

⑥ 子どもの名まえを「ななしのごんべい」とつけました。

⑦ やがておじいちゃんも、ななしのごんべいに、「おにがしまにいったい」といいました。

おにはもう、もも太郎がたいじしていました。

家に帰ってみると、おじいちゃんもしんでいました。

⑩ おにはもう、もも太郎がたいじしていました。

⑪ 家に帰ってみるとおじいちゃんもしんでいました。

おわり

1) 物語の分析

桃太郎のお話のパロディーである。一般的な桃太郎のお話を整理してみよう。

善良なおじいさんとおばあさんがいて、おばあさんが洗濯の途中に川で桃を拾い、その桃を切ったら、その中から桃太郎が出てくる。善良な老夫婦が、恵みとしての子

供(孫)を授かる。その桃太郎が、大きくなって鬼が島にいき鬼を退治して宝物を持ちかえる。子供が功をあげて(出世して)宝物を得る。大筋はそうしたところであろう。善に対しての、恵みと報奨(褒美)というのが構造である。

次にパロディーのお話しを整理してみる。

悪人のおじいさんがいて、桃を盗んでくる。一人占めしようとして、おばあさんを殺す。

桃太郎（ななしのごんべい）は、功をあげられず、宝物（報奨）も得られない。帰ってきたらおじいさんも死んでいた。

それぞれの話のポイントを、逆にしてパロディーにしているのだが、本来の桃太郎の話と同様（同じ）、辻褄があっている。

桃太郎は、善、恵み、功、褒美・ななしのごんべいは、悪 盗み 功なし、報酬なし

こうした構造が、真逆ではあるが不思議に違和感なく自然に理解できる。また、物語の語りとセリフが、所謂、建て前と本音の関係になっていて面白い。行為にしても、桃から人間が生まれることはありえないし、包丁で桃をきれば桃太郎も切れるわけで、切れるほうがリアティーがある。それを、ボンドでつけるというあり得ない行為にしたところが面白い。全体にクールで割れ切りのよい冷めた軽妙さがある。

2) キャラクターの分析

まず登場するキャラクターを並べてみよう。



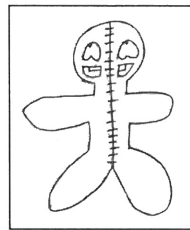
- ・おじいさんの横向き
- ・おじいさんの正面
- ・死んだおじいさん

おじいさんは禿げで歯が抜けている。また死んだおじいさんは、目鼻口がないところが、面白い。



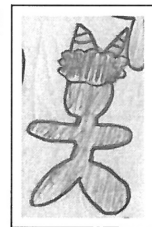
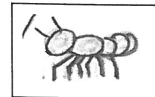
- ・おばあさんの横向き
- ・おばあさんの幽霊

ところどころでおばあさんの幽霊が出てくるのが効果的である。



- ・ななしのごんべい
- ななしのごんべいは、正にななしなので、人格がない。洋服も髪の毛もない。

- ・ありとおに



全体の形体には、特に目新しいものではないが、すべてのキャラクターの目か上部について、剽軽な可笑しさがあり、漫画全体を暗く感じさせない。5本指などに几帳面さがでている。

この男子小学生は 男ばかりの5人兄弟の3番目（長男と二男は双子）。両親は共働きであり手がかけられていないようである。喧嘩をすると納得できるまでやめないような頑固なところがある。絵を描いても工作をしても、几帳面に最後まで仕上げる粘り強さがあり、この漫画もかなり何度も推敲していた。

学生の「漫画」製作と分析

教育学部3年、(音楽、社会専修) 35名に、前章の児童作品を紹介し、手順、条件、内容を説明して「漫画」制作を行った。

- 手順 ① 誰でも知っている「お話」を選択する

- ② その「お話」を、各自のセンスでパロディー化し、漫画にする

- 条件 ① 授業時間3回(1回90分)その後、自宅制作で完成する。
 ② 1ページの大きさは、18cm×12cm。枚数は10枚程度。
 ③ 画材は、鉛筆、サインペン、色鉛筆、クレヨン(絵具は使わない)。

作品介绍と講評

35名が選択した「お話」を、表にしてみると以下ようになる。

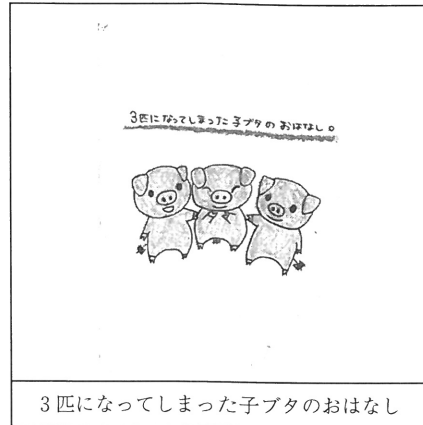
	男	女	計
桃太郎	7	1	8
3匹の子豚	2	2	4
シンデレラ	1	2	3
ウサギとカメ	2	1	3
白雪姫	0	2	2
赤ずきんちゃん	0	1	1
浦島太郎	1	0	1
グリとグラ	0	1	1
笠地蔵	1	0	1
ブレーメンの音楽隊	1	0	1
一寸法師	1	0	1
その他	7	1	8
合計	23	11	34

(未提出者1名)

34作品の中から、3点の作品を選択して紹介する。

作品例①

3匹になってしまった子ブタのおはなし



むかしむかし
ある牧場に お父さんぶたと
お母さんぶたと 子ぶ
た3びきが なかよく
くらしていました。

毎日 おなかいっぱい
えさも食べれるし、こ
わい おおかみも こな
い。とても 幸せな日々
をすごしていました。

①むかしむかし。ある牧場に お父さんぶたと お母さんぶたと 子ぶた3びきが なかよくくらしていました。

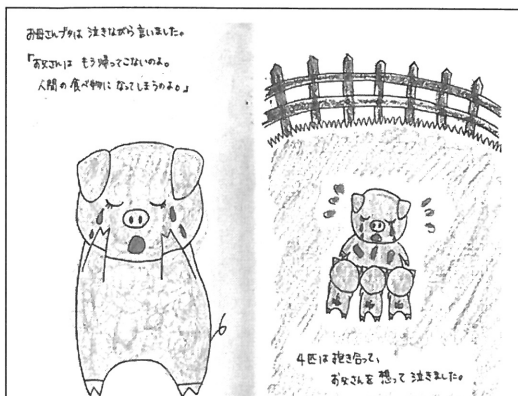
②毎日 おなかいっぱい えさも食べれるし、こわい おおかみも こない。とても 幸せな日々をすごしていました。

しかし、その幸せな日々が崩れ
ること になろうとは、夢にも
思っていませんでした。
ある朝、お母さんぶたと子ぶた
たちは、お父さんぶたの 悲痛な叫
びで目を覚ましました。

お父さんぶたがトラックに乗
せられてどこかへ行ってしまっ
たのです。

③しかし、その幸せな日々が崩れさること になろうとは、夢にも思っていませんでした。ある朝、お母さんぶたと子ぶたたちは、お父さんぶたの 悲痛な叫びで目を覚ましました。

④お父さんぶたがトラックに乗せられてどこかへ行ってしまったのです。



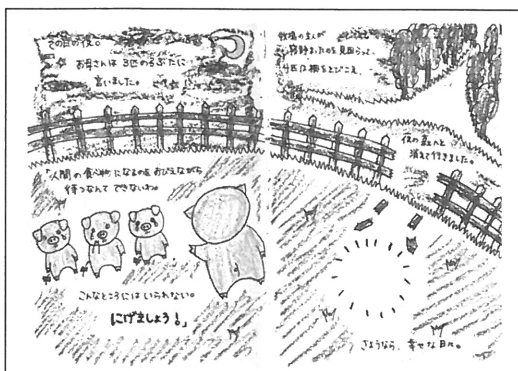
⑤お母さんブタは泣きながら言いました。「お父さんはもう帰ってこないのよ。人間の食べ物になってしまうのよ。」

⑥4匹は抱き合っ、お父さんを想って泣きました。



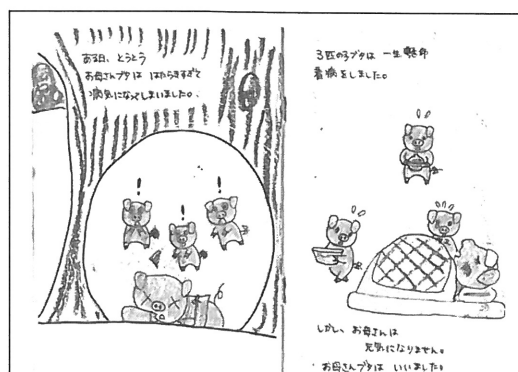
⑨お母さんブタは、幼い3匹を養うために、朝から夜まで一生懸命はたらきました。しかし、生活はとても貧しいものでした。

⑩それに、外にはこわいおおかみがいます。夜になると聞こえてくるうなり声に、おびえながらねむりました。「こわいよう」「おなかですいたよう」子ぶたたちは、ほらあなかから出ることはありませんでした。



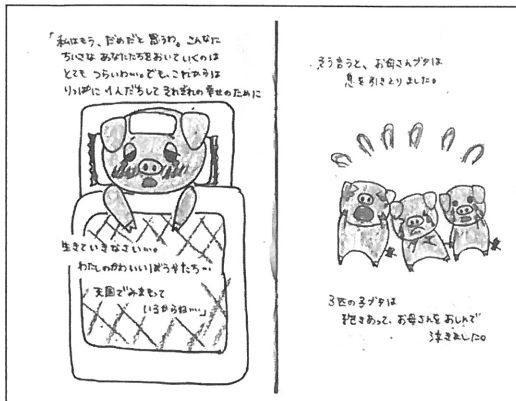
⑦その日の夜。お母さんは、3匹の子ぶたに言いました。「人間の食べ物になるのを、おびえながら待つなんてできないわ。こんなところには、いられない。にげましょう！」

⑧牧場の主人が寝静まったのを見計らって、4匹は柵をとびこえ夜の森へと消えて行きました。さようなら、幸せな日々。



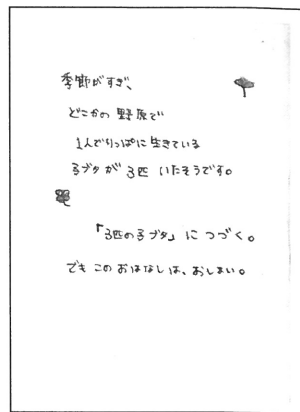
⑪ある日、とうとうお母さんブタは、はたらきすぎて病気になるってしまいました。

⑫3匹の子ブタは、一生懸命看病をしました。しかし、お母さんは元気がありません。お母さんブタは、いいました。



⑬「私はもう、だめだと思わ。こんなちいさいあなたたちをおいていくのはとてもつらいわ...でも、これからはりっぱに1人だちしてそれぞれの幸せのために
⑭生きていきなさい...わたしのかわいいほうやたち...天国でみまわっているからね...」

⑮ そう言うとお母さんブタは息を引きとりました。
⑯ 3匹の子ブタは抱きあって、お母さんをおしんで泣きました。



⑳ 季節がすぎ、どこかの野原で1人だけりっぱに生きている子ブタが3匹いたそうです。
『3匹の子ブタ』につづく。
でもこのおはなしは、おしまい。

講評

この話の作者は、「3匹の子ブタ」の前話を描こうと考えた。内容的にはシリアスである。檻に入れられた仮初の自由な生活は、父が売られたことで終わる。残された母豚と子豚達は、本当の自由を求めて檻の中の安逸な生活をする。現実には厳しく、母豚は死ぬ。残された子豚達は、自立を求めて旅立つというのがプロットであろう。どこかで聞いたような話ではあるが、テーマとすれば、「囚われた安逸な自由から、厳しい現実の中での自立した自由の希求」であろうか。ユーモアがあるとは言えないが、「厳しい現実社会」や「自立した自由」というテーマから、この学生の現実感や自立に対する考え方が窺える。この学生は日常的には非常に真面目な授業態度であり、作品からもそうした性格がよくうかがえる。絵としても1コマ1コマ構成が良く考えられて丁寧に描かれた作品とっていいだろう。全体の中ではこうした真面目な作品は少数であった。



⑰ お父さん、お母さんのためにも1人だちしてりっぱなブタになろうと。

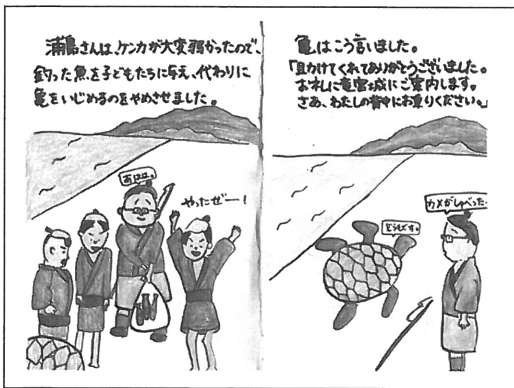
⑰ そして、3匹の子ブタは、それまですんでいたあなたをとりだし、りっぱなブタになるための第1歩をふみだしたのです。
⑱ 「りっぱなブタになって、またいつか会おう。3匹はお互いに手をふってお別れをしました。」

作品例② 裏・竜宮城



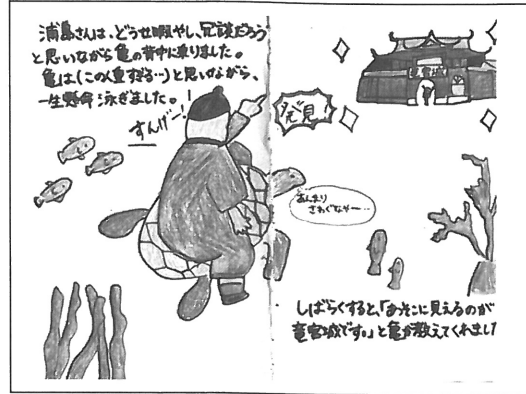
①むかし昔、浦島太郎という人がいました。

②ある日、浦島さんが海で釣りをしていると、数人の子もたちが亀をいじめていました。



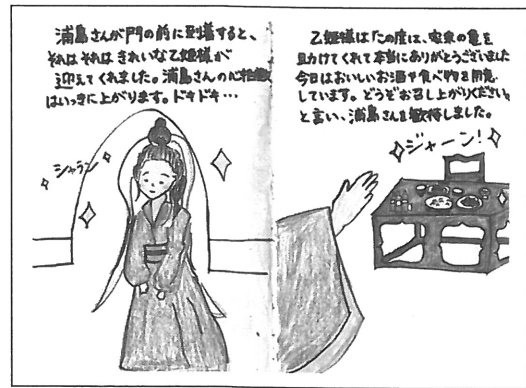
③浦島さんは、ケンカが大変弱かったので、釣った魚を子どもたちに与え、代わりに亀をいじめるのをやめさせました。

④亀はこう言いました。「助けてくれてありがとうございます。お礼に竜宮城にご案内します。さあ、わたしの背中にお乗りください。」



⑤浦島さんは、どうせ暇やし、冗談だろうと思いつながら亀の背中に乗りました。亀は(この人重すぎる...)と思いつながら、一生懸命泳ぎました。

⑥しばらくすると、「あそこに見えるのが竜宮城です。」と亀が教えてくれました。



⑦浦島さんが門の前に到着すると、それはそれはきれいな乙姫様が迎えてくれました。浦島さんの心拍数はいっしょに上がります。ドキドキ...

⑧乙姫様は「この度は、家来の亀を助けてくれて本当にありがとうございました。今日はおいしいお酒や食べ物を用意しています。どうぞお召し上がりください。」と言ひ、浦島さんを歓待しました。



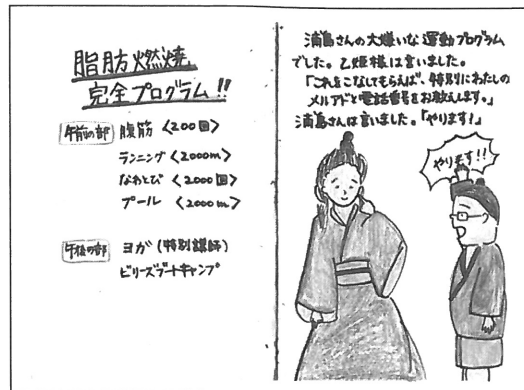
⑨浦島さんは、「これは何かの間違いやいやいやと夢を見ているに違いない。」と思いましたが、「ええい！ どうせ自分は家に帰っても家族も彼女もおらんし、このまま夢を見たらやないか！」と、寢る楽しみをしました。

⑩浦島さんは、自分がメタボであることを忘れて、たらふく食べました。



⑪「もーお腹がはちきれそうだ・・・。」浦島さんはそのままぐっすり眠ってしまいました。

⑫次の日・・・浦島さんが起きると、乙姫様が1枚の紙を渡しました。



⑬脂肪燃焼 完全プログラム
午前の部
腹筋 <200回>
ランニング <2000m>
なわとび <2000回>
プール <2000m>
午後の部
ヨガ (特別講師)
ビリーズブートキャンプ

⑭浦島さんの大嫌いな運動プログラムでした。乙姫様は言いました。「これをこなしてもらえば、特別にわたしのメルアドと電話番号を教えます。」浦島さんは言いました。「やります！」



⑮さっそく浦島さんは、ジャージに着替え、プログラムに取り組みました。

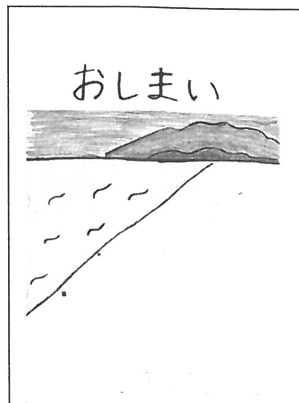


⑯そして・・・浦島さんは、見事30キロの減量に成功し、前より少しだけかっこよくなりました。



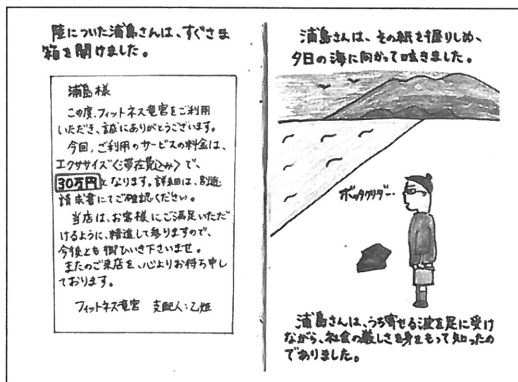
⑯乙姫様は言いました。「よく頑張りました。こちらの箱に、わたしの連絡先が入っております。陸にあがったら連絡ください。」

⑰浦島さんは、乙姫様と離れるのがいやではありましたが、連絡先が知れたので、早く陸にもどって、電話をかけて、お食事にもさそって…デートでも…と色々考えていました。



講評

話の構造は、元話の浦島太郎と同様である。同一構造を残して、現代にありそうな話にアレンジしているところが作者のアイデアであろう。吹き出しの言葉は小学生の作品と同様の、本音のつつこみになっていて面白い。ここにも作品例①と同様の「厳しい現実」が描かれているが、作品例①ほどには深刻に捉えていないところが、この学生の現実感であろう。諦めではないが、現実と自己との折り合いを付けていこうとする姿勢がある。この姿勢も現代の学生気質といえようか。作者は男子学生であり、男性心理やユーモアのある軽身が感じられ、描画は必ずしもシャープではないが、キャラクター同様、茫洋とした温かさを感じさせ好感が持てる。



⑱陸についた浦島さんは、すぐさま箱を開けました。

浦島様
この度はフィットネス竜宮をご利用いただき、誠にありがとうございます。今回、ご利用のサービスの料金は、エクササイズ〈滞在費込み〉で、30万円となります。詳細は、別途請求書にてご確認ください。当店は、お客様にご満足いただけるように、精進して参りますので、今後とも御鼠戻くださいませ。またのご来店を、心よりお待ちしております。
フィットネス竜宮 支配人
乙姫

⑲浦島さんは、その紙を握りしめ、夕日の海に向かって呟きました。

ポツタクリダ……

浦島さんは、うち寄せる波を足に受けながら、社会の厳しさを身をもって知ったのであります。

作品例③ シンデレラ



①むかいむかし あるところに 超かわいいのに、ちょっとヒネくれた シンデレラという美少女がいました。

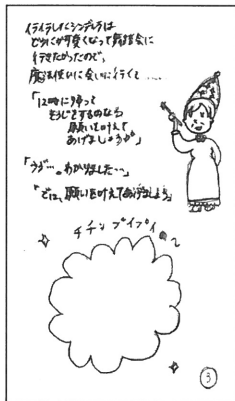
ちよーだるいよー

そうじもあまりせず いつもさぼってばかりで、お部屋はいつも ひっちゃかめっちゃかでした。



②母との約束を守らなかったため、シンデレラは舞踏会に連れてってもらえませんでした。

シンデレラはどうにかして行きたかったのですが、イライラしていました。



③イライラしたシンデレラは どうにか可愛くなって舞踏会に行きたかったのですが、魔法使いに会いに行くこと...

「12時に帰ってそうじをするなら 願いを叶えてあげましょう!」
「ううん、わかりました...」
「では、願いを叶えてあげましょう」



④キレイになーれー シンデレラはとってもかわいくなりました。しかし、心の中では約束を守るつもりはありませんでした。



⑤舞踏会に行ったシンデレラは、アンドレア王子に一目惚れしてしまいました。「ようし、絶対王子をゲットして帰るもんねー!」



⑥シンデレラの美しさに気付いた王子とシンデレラはいい感じになりました。しかし、まほうは12時までしかきかなかったため、しぶしぶシンデレラは帰りました。



⑦家に帰ったシンデレラは、面倒くさくなり、部屋のそうじもせず、化粧もおとさず、お風呂も入らず、ぐっすりとおねてしまいました。zzz



⑧次の日の朝、シンデレラのことを忘れられない王子は、町中の女の子からシンデレラを探し始めました。

夕方になり、ようやくシンデレラ家についたアンドレア王子。もうダメかと思っていた王子は...



⑨「見っ…見つけた!!」
アンドレア王子は、シンデレラのお姉さんをシンデレラだと思ってしまいました。シンデレラはめんどくさがりすぎて、女度が下がったため、気付かれなかったのです……。



⑩1週間ふさぎこんだシンデレラ。しかし、シンデレラは気付いたのです。女の子は外見よりも中身だと。



⑪それからシンデレラは、めんどくさがらず、いろんなことを頑張り、平凡なひとと 幸せに結婚しましたとさ
おしまい

講評

今回のテーマである、お話をパロディー化するという意味では、面白く良くできている。全体に明るい雰囲気や軽い感じが、漫画というメディアに適している。この明るさや軽さは、作者の日常の生活を映しているのだろう。怠惰な生活や功利的な本音が垣間見えて、現代の学生の現実感がある。特に面白いと思えるのは、元話の「シンデレラ」というお話の、玉の輿という価値観が、『平凡なひとと、幸せに結婚しましたとさ』という価値観になっているところが、現代の若者の現実認識と価値観をよく表している。現実を飛び越える「現代的軽さ」とでも言おうか。絵としては丁寧とは言えないが、現代のアニメ風の表現がされている。

3 作品の要約及び全体の分析

最初の作品は、内容的には「厳しい現実」をはっきりと意識し、正面から「自立した自由」を求めるといふ非常にまじめな作品であり、こうした意識は少数派であり、そのことが現代の学生のひとつの特徴だろう。また後の2作品は、現実をよく知っており、客観視して笑うか、軽く飛び越えるかはあるが、こちらの方が多数派である。全35作品を概観すると、彼らの最大の関心事は、恋愛も含めて人間関係であることが非常によく現れている。他者や現実社会と、敵対することよりも、どううまく付き合うか、折り合うかというところに、物語の焦点があり、また彼らの価値観もある。今回の場合は、善人も悪人もさほど強烈な個性ではなく、「人を騙す」くらいで、「殺す」という言葉は、全作品の中で一つもなかった。こうした傾向は大人だと言えば言えるが、生きていく「拘りや夢」というような意味では物足りない気がする。今回は3点を紹介したが、丹念にそれぞれの作品を見ていくと、意識、無意識はあるものの、学生たちの現実感や人間に対する感覚がよく表現されていると言えるだろう。

おわりに

最初に述べたように、美術は自己表現である。我々が対象にする、幼児、児童、生徒、学生は、我々と共に同じ時間を生きている。共に生きている(美的感性、造形思考)ことを感じながら、それぞれの作品を丹念に見ていくと、彼らの感じていることや思考が見えてくる。美術は時代と共に生きるものであり、新しい表現方法やジャンルが日々生まれている。そうした中で彼らがより表現がしやすい課題や教材を研究することが必要だと考えている。「漫画」は、従来、サブカルチャーとして扱われてきたが、彼ら(児童、生徒、学生)にとっては身近であり、教材としての提示の方法や、制作方法、IT 機器等の利用方法などを工夫することで、教材としての可能性はあると考えている。

図版出典

児童作品 N小学校 5 年男子の作品を、了承の上、掲載した。

学生作品 S 学園大学の授業作品を、学生了承のもとに、掲載した。